



遊んで心も体も生き生きと豊かに!



富谷市成田東小学校児童クラブ室長 宮崎 吉輝

「遊んでばかりいないで勉強しなさい!」

家の中でテレビゲーム(含むタブレットゲーム)をしている子どもに言っている映像が浮かびますね。

懐かしの映像では、夕暮れの中、遊んでいる子どもたち(の中の一人)にお母さんが、

「ごはんですよ〜!」と言っている声が聞こえる。それを合図に子どもたちが三々五々家路につく映像が浮かび上がります。

上の二つの映像から窺える違いの要旨は、「集団遊び」「外遊び」「家族団らんの夕食」です。昔はよかったです。昔に戻りましようと言っているわけではありません。親御さんの働く環境も、子どもたちの生活環境も大きく変わっているのですから違って当たり前です。

ここでは、「遊び」について考えてみたいと思います。

確かに公園などで子どもたちの集団遊びの姿は見られなくなりました。けれども、学校の休み時間や放課後の校庭では、今でも元気な子供たちの声が響いています。子どもたちの外遊びへの本能的な欲求は変わらないのです。変わったのは大人の意識ではないでしょうか。「(少ない家事の時間で)服が汚れる遊びは困る。」「子ども同士のトラブルを避けたい。関わり合いになりたくない。」「外には危険がいっぱいある。」等々があり、全体的に親御さんのコントロールの度合いが強まっているのではないのでしょうか。

子どもの成長に、外遊びに限らず「遊び」の必要性はとても大きなものがあります。特に、「社会性」の育成にとっては、「子ども同士のトラブル」が大きな糧となります。どうしてトラブルになったのか、またトラブルにならないようにするにはどうしたらよいか、楽しく遊ぶためにどうすればいいか、等々子ども自身が納得して体得しないことには身につけません。ですから、大人が先回りしてトラブルを避けさせたり、大人目線でトラブルを裁いてしまうのは成長の糧を奪うことになるの

です。「規律(ルール)」の大切さや、「他人に対する思いやりや優しさ」もトラブルの中で学びます。もちろん、明らかに危険なことや、無用の混乱は指導の中で避けなければならないのは当然ですが。

「知的好奇心」「創造性」「自主性」「生きる意欲」「忍耐力」を育てるのも「遊び」の大きな働きです。自らやりたいことをやるのが「遊び」ですから当然ですが、いやしとしての自己表現になり、ストレス発散効果もあります。また、ボードゲームや工作では、負けや失敗の経験も大きな成長の糧となります。負けることや失敗しないことよりも、そこから学ぶことの方が格段に大きな経験となるのです。自然の中での興味喚起や発見も遊びならではの広がりを持ちます。「子ども同士の遊び」の中で生きた伝わる言葉を学んだり、コミュニケーション能力が育っていきます。

「学校での勉強」の基礎となる力が、様々な「遊び」によって育まれることも知ってもらいたいと思います。また、学びのきっかけになることもたくさんあるのです。

健全な遊びを通して、子どもたちは健康な体と豊かな心を獲得していきます。

子どもたちには、元気に楽しく遊び、大きく成長してもらいたいと考えています。

